

授業科目(ナンバリング)	介護総合演習Ⅱ(介)(DB315)			担当教員	久田 貴幸 大町 いづみ 浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・集中	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は、3 年次実習「介護実習Ⅱ」と連動させ、介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を身につけることとする。実習は、学んだ全ての知識・技術を統合させ、指導を受けながら、実際に介護実践をし、様々な状況に応じた支援方法について学ぶための事前準備の機会でもある。</p> <p>介護実習Ⅱは身体障害者や在宅高齢者サービス事業所等での実習を行うため、サービス事業所についての特徴や内容について理解をし、介護を展開する力を身につける。また、障害者・児事業所、高齢者在宅介護サービス事業所の理解と各事業所の理解や、利用者の生活問題について、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通し、考察を行い表現できるスキルを身につける。本演習によって、専門的知識・技術を修得し、様々な課題解決を図ることができることをねらいとする。</p>							①④⑤
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	実習先の概要や組織、利用者について理解し、説明できる。 実習を振り返り発表できる。残された課題を述べるができる。				実習計画書 発表	10% 40%	
情報収集、分析力	実習評価（他者評価）を自己分析できる。 実習施設に関する情報を収集しまとめることができる。 自己覚知をした上で、実習プロフィールを更新することができる				評価レポート 実習計画書 実習プロフィール表	10% 5% 5%	
コミュニケーション力	実習後の報告会で他の学生と意見を交わし合うことができる。 グループ構成員と意見を交わしながら発表準備に取り組むことができる				実習後報告会 発表	10% 10%	
協働・課題解決力	実習課題を的確に把握し、施設スタッフと協力し課題解決に向けた計画を立案し、着実に実行することができる。				評価レポート	10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習計画書（15%）：実習要綱や自身が取り組みたいことを計画書に反映しているかによって評価する。 ・ 発表（50%）：介護技術研究の成果の発表にて評価する（発表スキル、研究成果レポートをもとにした発表原稿）。 ・ 評価レポート（20%）：実習評価の自己分析や残された課題についてレポートしているかによって評価する。 ・ 実習プロフィール（5%）：自己覚知に基づいたプロフィール作成にて評価する。 ・ 実習後報告会（10%）：後期初回に行われる報告会に向けた準備状況や報告状況にて評価する。 							
授業の概要							
<p>本演習は、介護実習Ⅱで必要な知識や技術について、学修内容を踏まえ、主体的な学修で授業を展開する。学生の学修到達状況に応じグループワークでのディスカッションに取り組み、個別指導を実施する。各教科の統合や、各施設・事業所の理解、介護の知識と技術の確認、実習後の振り返りを行い、実習課題を明確にする。特に介護過程と具体的な統合を意識して行う。実習 OR や指導は、学内外・授業時間外、又、ポートフォリオを通して実施する。評価レポート返却や発表時の教員コメントにてフィードバックを行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>参考書：最新・介護福祉士養成過程 10 「介護総合演習・介護実習」（2019）年 中央法規出版 長崎国際大学介護福祉実習要綱・本学実習関連書類・記録等 その他、必要に応じて資料を提示する。 指定図書：久田則夫『福祉の仕事でプロになる』 中央法規 （2016）年</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

介護実習を意識した知識や技術を再確認する。また、実習課題の整理を行うこと。実習課題がクリア出来るように個別のレベルに応じた指導を実施する。指導された内容は、素直に受け止め、柔軟な発想ができる様な心構えをしておく。授業外の日程においての集中指導を行うので、スケジュール管理は必須であるため、各自で適宜確認すること。注意点：講義中の私語、携帯電話の使用は禁止とし他者に迷惑をかけること。また欠席の場合は必ず事前連絡を行うこと。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	介護実習Ⅰの振り返り 受講オリエンテーション	本演習内容を確認し理解する。 介護実習Ⅰでの評価・課題を踏まえた新たな目標について確認する。(久田・大町・浦)	予習：介護実習での課題レポート提出 復習：本実習の目標整理
2	実習現場について①	利用者と施設概要を理解する。 各種関連する法律に基づく支援体制を学ぶ。 (久田・大町・浦)	予習：在宅高齢者、障害児について調べる 復習：追加内容を確認
3	知識・技術の統合①	質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を確認し、安全・安楽な介護、自立生活支援に向けた介護技術の提供などを確認する。(久田・大町・浦)	予習：配付資料確認 復習：演習内容をまとめる
4	実習オリエンテーション①	実習プロフィールを更新する。 実習計画書を作成し、意見交換を行う。 実習記録様式の書き方を学ぶ。(久田・大町・浦)	予習：配付資料を確認する 復習：各介助を確認する
5	実習オリエンテーション②	実習ガイダンス、危機管理・個人情報保護・守秘義務・プライバシー保護等、実習直前オリエンテーションを実施する。(久田・大町・浦)	予習：計画書作成修正 復習：計画書の完成
6	実習後報告会 知識と技術の統合②	実習で学んだことや残された課題の報告を行うことで、実習を振り返る。(久田・大町・浦)	予習：報告内容の作成 復習：配付資料の再読
7	介護実習Ⅱ（前半）の自己評価と他者評価	実習の自己評価を行う。実習指導者からの評価（他者評価）と比較し、実習での学びを深化させ、残された課題の明確化を図る。(久田・大町・浦)	予習：実習自己評価の検討 復習：自己評価と他者評価の振り返り
8	知識・技術の統合③	質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を確認し、安全・安楽な介護、自立生活支援に向けた介護技術の提供などを確認する。(久田・大町・浦)	予習：配付資料確認 復習：演習内容をまとめる
9	実習オリエンテーション③	実習プロフィールを更新する 実習計画書を作成し、意見交換を行う 実習記録様式の書き方を学ぶ(久田・大町・浦)	予習：配付資料を確認する 復習：各介助を確認する
10	実習オリエンテーション④	実習ガイダンス、危機管理・個人情報保護・守秘義務・プライバシー保護等について確認する。 (久田・大町・浦)	予習：計画書作成修正 復習：計画書の完成
11	実習後報告会 知識と技術の統合④	実習で学んだことや残された課題の報告を行うことで、実習を振り返る。(久田・大町・浦)	予習：報告内容の作成 復習：配付資料の再読
12	介護実習Ⅱ（後半）の自己評価と他者評価	実習の自己評価を行う。実習指導者からの評価（他者評価）と比較し、実習での学びを深化させ、残された課題の明確化を図る。(久田・大町・浦)	予習：実習自己評価の検討 復習：自己評価と他者評価の振り返り
13 14 15	知識と技術の統合⑤～⑦ 介護実践の科学的探究①～③	個別の学習到達状況に応じた総合的な学習として、実習で取り組んだ事柄、特に介護技術を事例として取り扱い、事例を用いた検討・研究・発表を行う。介護総合演習Ⅲ（介護実習Ⅲ）に向けた残された課題抽出を行う。(久田・大町・浦)	予習：実習取り組み内容の整理、演習コメント整理 復習：ディスカッション内容整理、研究報告書作成